

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：34423

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01280

研究課題名（和文）災害伝承を活用した災害復興と持続可能性に関する研究

研究課題名（英文）Research on Disaster Recovery and Sustainability Utilizing Disaster Lore

研究代表者

安田 政彦（yasuda, masahiko）

帝塚山学院大学・リベラルアーツ学部・教授

研究者番号：90230226

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は地域の自助・共助を促し、地域防災・減災力を中心とした地域復興力を強化するための仕組みを構築することである。

以下の3つの調査を行った。過去の災害にまつわる古文書・民間伝承、石碑・遺構、古地図といった歴史資料（以下、災害史料と記す）の調査や、度重なる被災経験の記憶に関する継承状況の調査、復興期における地域コミュニティ構成住民の意識調査。これらの調査を通して、（1）地域防災・減災力強化に有効な災害史料の収集・整理法の検討（2）地域の日常生活に溶け込む地域防災・減災力強化法の構築（3）世代を超えた防災・減災強化の持続可能性の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究グループは、歴史・民俗・災害情報・地域看護・金石文デジタルアーカイブの研究者で構成された学際的なグループである。

歴史学研究者が中心となり、災害史料の記述からみられる災害の記憶継承の仕組み、生活様式をモデル化し、それを基にすることで、過去の災害伝承を現代の地域の生活に溶け込む防災体制に昇華する。さらに、災害情報・地域看護研究者を中心に、忌まわしい記憶である災害伝承を基にした防災体制の持続可能性について検討する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to promote self-help and mutual assistance in the community, and to establish a mechanism for strengthening the community's recovery capabilities, focusing on regional disaster prevention and mitigation. 1) investigating historical records such as ancient documents, folklore, stone monuments, relics, and archaic maps related to past disasters, 2) surveying on the inherited situation regarding the memory of repeated disaster experiences, and 3) conducting an opinion survey of local community members during the reconstruction period. We 1) examined methods for collecting and organizing disaster historical records that are effective in strengthening regional disaster prevention and mitigation, 2) developed a method for strengthening regional disaster prevention and mitigation capabilities that can be integrated into daily lives of local communities, and 3) examined the sustainability of strengthening disaster prevention and mitigation across generations.

研究分野：日本史学

キーワード：災害伝承 自然災害伝承碑 事前復興まちづくり 持続可能性 生活環境特性

1. 研究開始当初の背景

近年、「世代を超える災害の記憶」の重要性は見直されている。それは岩手県釜石市の小中学生が、自然災害の教訓や知恵を伝承されていたことにより、東日本大震災発生時に生存率99・8%という成果を挙げたことが一因と言える。この成果は三陸地方の村落内で伝承されてきた「津波はまず各々が逃げるのが大切」という過去の津波からの教訓を「津波でんでんこ」という防災標語とし、その標語を基に防災訓練を行ってきた結果、東日本大震災発生時に多くの児童がその訓練を実践できたためである。これを教訓として、自然災害の教訓や知恵を地域社会の中で伝承する重要性が見直されていることは、東日本大震災復興構想会議の「復興への提言～悲惨の中の希望～」に、「わが国は、過去、幾度となく災害を経験し、その度ごとに、その教訓を活かし、防災対策を強化してきた。一方、特に歴史上数少ない災害については、時間の経過とともにその教訓は、忘却され、風化しやすい面もある。今後、同様の被害を起こさないために、地域・世代を超えて今回の教訓を共有化することが必要である。」と記載されていることから伺える。しかし、災害史料を地域復興力に生かす為には、被災経験を次代に伝えるだけでは十分ではない。例えば、矢守(2011)は、災害の記憶を生かして地域の防災力を強化する為に、日常生活を構成する様々な諸活動(家事・仕事・福祉・環境問題・祭り・スポーツイベントなど)とともに、防災・減災活動を生活全体の中に溶け込ませることを重視する「生活防災」を提唱した。石原他(2012)は、この「生活防災」に着目し、災害伝承の実態とその効果を測定した結果、災害教訓を伝承された経験は、防災意識や地域への態度や防災対策・行動には直接影響せず、生活防災を通じて影響を受けることを明らかとしている。このように、災害史料を防災・減災力に生かす為には、記憶を伝承するだけでなく、地域の生活文化に定着させる仕組みを構築する必要がある。また、東日本大震災復興構想会議が「特に歴史上数少ない災害については、時間の経過とともにその教訓は、忘却され、風化しやすい面もある。」と喚起するように、災害伝承の風化は地域の防災力の低下の一因と成りうる。自然災害の正確な予測が困難な現状において、いつ起こるか定かではない災害に対するには、継続的に防災・減災力を強化し続ける、防災体制の持続可能性についても検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、過去の災害にまつわる古文書・民間伝承、石碑・遺構、古地図といった歴史資料(以下、災害史料と記す)や、度重なる被災経験の記憶を発掘することにより、地域の自助・共助を促し、地域防災・減災力を中心とした地域復興力を強化する仕組みを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

1. 地域復興力強化を目的に災害史料を効果的に収集・整理し、その上で2. 収集整理した災害史料を活用する仕組み(教育プログラム・ツール)を開発し、最後に3. 負の記憶を継承する際に起こりうる問題を検討し、構築した仕組みの持続可能性を検討する。

4. 研究成果

(1) 災害伝承史料の収集

『民俗学関係雑誌文献総覧』(竹田旦編, 国書刊行会, 1978)に記載された民俗学雑誌・『日本随筆大成』第1期～第3期(吉川弘文館, 1975-78)・自治体の調査報告書・自治会等で編纂された伝説集を調査・収集し、防災力・減災力に利用可能な教訓を含むものリストアップした。

結果、北海道(40)、青森県(35)、岩手県(44)、宮城県(49)、秋田県(15)、山形県(8)、福島県(22)、茨城県(8)、栃木県(21)、群馬県(20)、埼玉県(34)、千葉県(16)、東京都(33)、神奈川(38)、新潟県(37)、富山県(33)、石川県(4)、福井県(50)、山梨県(16)、長野県(6)、岐阜県(20)、静岡県(28)、愛知県(72)、三重県(13)、滋賀県(10)、京都府(17)、大阪府(20)、兵庫県(29)、奈良県(14)、和歌山(18)、鳥取県(14)、岡山県(10)、広島県(20)、山口県(23)、徳島県(10)、愛媛県(9)、高知県(50)、福岡県(14)、長崎県(16)、熊本県(15)、大分県(9)、宮崎県(16)、鹿児島(21)、沖縄県(6)の合計963件を抽出し、分析を行った。

リストアップした伝承の中からさらに、熊本県天草市をモデルの一つとして現地調査を行った。天草市は1792年に肥前国島原(現在の長崎県)で発生した雲仙岳の火山性地震に起因する眉山の崩壊(島原大変)に起因する津波による犠牲者が多く流れ着いた歴史を有し、それに関連する石碑を中心として民俗行事が報告されている。行事の実見はできなかったが、聞き取りから継承の断絶が確認できた。一方で、石碑を保護している地域の寺院による新しい継承の動きが確認できた。

(2) 災害史料を活用する取組み

自然災害伝承碑について、高等学校の歴史研究部活動に碑文解読用のソフトを提供し、判読可能な碑文画像を作成を行う地域被災履歴の学習プログラムの実践を行った。学生調査の様子は共同通信の取材を受け、・岩手日報(3/18朝刊)、信濃毎日(3/18夕刊)、長崎新聞(3/21朝刊)、高知新聞(3/17夕刊)、千葉日報(3/20朝刊)、山陽新聞(夕刊)、熊本日日新聞(4/4夕刊)、京都新聞、奈良新聞、中部経済新聞などに掲載された。また、兵庫県香美町小代では、1970年代に雪害により、集団移転を余儀なくされた2つの集落の住民への聞き取りを実施し、移転後の生活環境や社会的状況、移転後のコミュニティが人口減少、少子高齢化

し、自治会を解散（廃村）せざるを得ない状況のなかで生活の記憶を住民とともに記録化する調査を実施した。

（３）持続可能性の仕組みの検討

事前復興まちづくりを目標とした被災経験の調査

昭和南海地震・昭和チリ地震の被災経験者を対象に、被災経験が地域の居住継続意向に与える影響についてヒアリング調査とアンケート調査により明らかにした。また、被災経験の伝承を基盤とした事前復興まちづくりのプログラムを提示した。

市民の手による地域災害伝承（主に自然災害伝承碑）の継続的調査手法の確立

津波の到達点を示す津波碑、水害発生地点を示す水害碑等、災害の記憶を継承警告する自然災害伝承碑を被災経験リマインダーとして機能させることを目的に市民協同で調査する仕組みを構築する取組みを行った。手法としては、安価でありふれた機材（懐中電灯・スマートフォン・三脚）で誰でも簡単に素早く金石文の拓本画像が撮れる光拓本の技術を一般向けに開発し、活用した。

災害研究に基づいた生活環境特性の調査

被災した「住み慣れた地」における高齢期住民の生活環境特性と課題の調査、コミュニティの存続・移転・廃止から見た被災地域内での今後の生活に対する意識調査を実施した。

東日本大震災で支援活動をした保健師、復興支援行政官への聞き取り調査をおこなった。また、過疎地自治会と高齢者福祉施設が協同する地域完結型高齢者生活支援、医療・保健・福祉関係者の連携、保健師の活動を支える情緒的要因と住民支援といった、主に東日本大震災後の生活環境の変化の課題抽出を行った。

結果、災害被災地の高齢者が加齢で生活自立度が低下しても、激変する生活環境に適応し、防災・減災を備えた地域力によって生活継続できる「地域完結型高齢者自立生活支援モデル」を構築するに至った。それぞれ地域特性を活かした生活支援が行われており、医療、経済的自立、

交流の場、移動手段、買い物の確保、の5条件を軸とした「地域完結型高齢者自立生活支援モデル」を提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 近藤誠司, 宮本匠, 石原凌河, 木戸崇之, LEE FUHSING, 宮前良平, 大門大朗, 立部知保里	4. 巻 8(5)
2. 論文標題 災害復興をめぐることばの諸相：復興ワードマップ研究会による基礎的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害復興学会学会誌『復興』	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石原凌河	4. 巻 28
2. 論文標題 阪神・淡路大震災25年からの教訓の伝承に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 21世紀ひょうご	6. 最初と最後の頁 74-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上椋英之	4. 巻 86
2. 論文標題 ひかり拓本による石造物画像の資源化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上椋英之	4. 巻 7
2. 論文標題 ひかり拓本を利用した簡便な凹凸記録法の提案	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化財の壺	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江篤	4. 巻 44
2. 論文標題 民俗芸能の定着-兵庫県美方郡香美町の「三番叟」を中心に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 御影史学論集 (44)(御影史学研究会)	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江篤	4. 巻 11
2. 論文標題 尼崎市立地域研究史料館と大学-地域を志向した教育・研究-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域・大学・文化	6. 最初と最後の頁 34-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江篤	4. 巻 240
2. 論文標題 地域歴史遺産としての民俗文化-改正文化財保護法と民俗学の課題-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山民俗	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石原凌河, 井上翔太, 岡村周哉, 國分ひかり, 茂木佑馬	4. 巻 Vol.8, No.2
2. 論文標題 事前復興まちづくりに向けた被災経験談の活用に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷政策学論集	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石原凌河	4. 巻 No.105
2. 論文標題 被災経験の伝承を基盤とした事前復興まちづくりの可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域安全学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石原凌河	4. 巻 2018
2. 論文標題 南海トラフ巨大地震の被害想定に対する居住継続意思に関する一考察：被災経験を基盤とした事前復興まちづくりの展開に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年度日本建築学会大会（東北）都市計画部門研究協議会資料集「復興まちづくりと空間デザイン技術」	6. 最初と最後の頁 97-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江篤	4. 巻 385
2. 論文標題 兵庫県美方郡香美町サテライトスタジオでの取り組み 但馬地域と園田学園女子大学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大学時報	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江 篤	4. 巻 117
2. 論文標題 怪を語れば“ふるさと”に至る-怪異学と地域創生-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 尼崎市立地域研究史料館紀要	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大江 篤	4. 巻 17
2. 論文標題 日本古代の「神」認識とト占	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西洋古代史研究	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件(うち招待講演 1件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 上相英之, 上相真之, 多仁照廣
2. 発表標題 ひかり拓本データベースの構築
3. 学会等名 日本情報考古学会 第43回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日比野直子, 野呂千鶴子, 及川裕子, 今村恭子, 滝沢隆
2. 発表標題 東日本大震災で支援活動した被災地保健師の語りから捉えた保健師活動への思いの変化
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 及川裕子, 野呂千鶴子, 日比野直子, 滝沢隆, 今村恭子
2. 発表標題 東日本大震災被災地の高齢者の変化を保健医療福祉職の思い～被災4年目と6年目のインタビューから～
3. 学会等名 日本災害看護学会第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野呂千鶴子, 及川裕子, 日比野直子
2. 発表標題 過疎地域自治会と高齢者福祉施設が協働する地域完結型高齢者生活支援の抱える課題
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chizuko Noro, Yuko Oikawa, Naoko Hibino, Kyoko Imamura, Takashi Takizawa
2. 発表標題 Changes and issues regarding the living environment following the Great East Japan Earthquake perceived by the administrative officer who supported the recovery
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Hibino, Chizuko Noro, Yuko Oikawa, Kyoko Imamura, Takashi Takizawa
2. 発表標題 Emotional Factors Supporting the Activities of a Public Health Nurse in an Area Affected by the Great East Japan Earthquake and Future Challenges of Resident Support
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuko Oikawa, Chizuko Noro, Hibino Naoko, Kyoko Imamura, Takashi Takizawa
2. 発表標題 Current state and problems of collaboration of healthcare, medical service and welfare professionals in area hit by the Great East Japan Earthquake.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideyuki Uesugi, Masayuki Uesugi, Teruhiro Tani
2. 発表標題 Development and Improvement of Image Processing Scheme for Archiving Inscription
3. 学会等名 iPres2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石原凌河
2. 発表標題 災害の記憶を未来へ伝えるために
3. 学会等名 第10回 稲むらの火講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideyuki Uesugi
2. 発表標題 Image Processing Scheme for Archiving Epigraph
3. 学会等名 2018 International Conference on Digital Heritage（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上相英之
2. 発表標題 石造遺物調査における光拓本技術の提案と評価
3. 学会等名 日本情報考古学会 第42回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上相英之
2. 発表標題 石造遺物観光資源化のためのスキーム開発
3. 学会等名 第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上相英之
2. 発表標題 石造遺物画像の文字解析のためのノイズ除去手法の開発
3. 学会等名 第119回 人文科学とコンピュータ研究会発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上相英之
2. 発表標題 判読可能な津波碑文画像の取得方法の提案
3. 学会等名 第35回 歴史地震研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大江篤
2. 発表標題 尼崎市立地域研究史料館と大学 地域を志向した教育・研究
3. 学会等名 シンポジウム 地域歴史遺産の「活用」を問い直す 地域資料館の可能性
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野呂千鶴子
2. 発表標題 復興期にある東日本大震災被災地の高齢者の生活環境特性と課題(第1報) 高齢者支援者が捉えた生活環境の変化と高齢者への影響
3. 学会等名 日本災害看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko NORO
2. 発表標題 Community-oriented, self-implemented lifestyle support systems for the elderly” from the viewpoint of lifestyle support for elderly people living in depopulated areas of Japan
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chizuko NORO
2. 発表標題 Effort of the self-governing association and the elderly welfare facility to build regional completion typed living support system for elderly people in depopulated area of japan
3. 学会等名 The 5th China Japan Korea Nursing Conference Tokyo 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大江 篤
2. 発表標題 怪・異・妖 -日本古代の怪異認識-
3. 学会等名 東アジア怪異学会第113回定例研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大江 篤
2. 発表標題 地域歴史遺産としての「営みの記憶」-災害復興の現場から-
3. 学会等名 園田学園女子大学COC+事業シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上相 英之
2. 発表標題 野に刻まれた災害の記憶:石造遺物の果たす役割について
3. 学会等名 園田学園女子大学COC+事業シンポジウム
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石原 凌河 (isihara ryoga) (00733396)	龍谷大学・政策学部・准教授 (34316)	
研究分担者	大江 篤 (oe atusi) (10289051)	園田学園女子大学・経営学部・教授 (34516)	
研究分担者	野呂 千鶴子 (norozizuko) (20453079)	国際医療福祉大学・保健医療学部・教授 (32206)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	上相 英之 (uesugi hideyuki) (50600409)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・埋蔵文化財 センター・研究員 (84604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関